

事務事業名		綾里診療所・歯科診療所改築事業			☐ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	04: 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	17: 生涯にわたる健康づくりの推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02: 地域医療体制の充実			☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度 ~) ☒ 期間限定複数年度 (計画期間) 20 年度 ~ 21 年度 ↓ 全体計画欄の総投入量を記入		14	04	01	01	00
根拠法令											
所属	部課名	生活福祉部国保年金課									
	係名	福祉医療係	電話	44-2103	内線						
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ○現在の綾里診療所は昭和38年に、歯科診療所は綾里診療所の建物の一部を改築して昭和47年に開設されたものであり、老朽化が著しく、またバリアフリーにも対応していないため、高齢者や障害のある方の利用等に支障を来している。 このことから、住民の保健・医療の充実を図るため、今般綾里診療所・歯科診療所を全面的に改築し、一体的な整備を行うものである。 ○事務事業の内容: 綾里診療所・歯科診療所を改築するための事業 ・建設工事実施設計業務委託 (H20) 5,000千円 → 【一部H21へ繰越】 ・国庫補助申請、設計監理業務委託、建設工事、備品購入、医療法に基づく開設等の許可申請、健康保険法に基づく保険医療機関の指定申請 (H21年度)							全体計画 (期間限定複数年度のみ)				
総投入量 (千円)							事業費	財源内訳	国庫支出金		
									都道府県支出金		
									地方債		
									その他		
									一般財源		
							事業費計 (A)		0		
							人件費	正規職員従事人数			
								延べ業務時間			
								人件費計 (B)		0	
							トータルコスト(A) + (B)		0		

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動)		名称	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		単位	
診療所の改築、備品の整備等を行った。		ア	建設工事実施設計業務委託料 設計監理業務委託料
			千円
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		イ	改築工事費
22年度に繰り越した工事の残りを行った。			千円
		ウ	備品購入費
			千円
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
・綾里診療所・歯科診療所		名称	
・主に三陸町綾里地区住民		単位	
		カ	建物建築面積
			m ²
		キ	綾里地区の住民数
			人
		ク	
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
綾里診療所・歯科診療所をバリアフリーにも対応した施設として全面的に改築し、地域住民だれもが利用できる直営診療所として地域医療体制の充実を図る		名称	
		単位	
		サ	綾里地区で医療体制が整っていると答えた人の割合
			%
		シ	
		ス	
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
地域住民だれもが早期に適切な医療が受けられ、健康の保持増進が図られる。			

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業費	財源内訳	単位						
		国庫支出金	千 円					21,455	
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円				1,600	95,700	10,900
		その他	千 円						3,245
		一般財源	千 円				155	7,085	
		事業費計 (A)	千 円	0	0	0	1,755	124,240	14,145
	人件費	正規職員従事人数	人				1	1	1
		延べ業務時間	時 間				50	150	150
		人件費計 (B)	千 円	0	0	0	200	600	600
トータルコスト(A) + (B)		千 円	0	0	0	1,955	124,840	14,745	
活動指標	ア	千円				1,755	5,246	0	
	イ	千円				0	107,750	14145	
	ウ	千円				0	10,022	0	
対象指標	カ	m ²				330	330	330	
	キ	人				2,941	2,914	2,867	
	ク								
成果指標	サ	%				24.1%	30.0%	60.0%	
	シ								
	ス								

事務事業ID	1250	事務事業名	綾里診療所・歯科診療所改築事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 綾里診療所は昭和38年に、歯科診療所は綾里診療所の建物の一部を改築して昭和47年に開設されたもので老朽化が著しいことから、平成13年に合併建設計画へ綾里診療所・歯科診療所改築事業として登載された。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 当初、老朽化が著しい綾里診療所・歯科診療所を改築する計画で合併建設計画に登載していたが、同じく老朽化が進み合併建設計画に整備計画が登載されていた綾里地区公民館及び綾里地域振興出張所の機能を有する綾里地区コミュニティ施設との一体的な整備を望む地域要望があったことから、綾里診療所・歯科診療所と綾里地区コミュニティ施設を一体型施設として整備することとした。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 住民からは、当該地区唯一の医療機関であることから早期改築の実現を要望されている。また、綾里診療所・歯科診療所と綾里地区公民館及び綾里地域振興出張所の機能を有する綾里地区コミュニティ施設との一体型施設としての整備が望まれている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 現在の綾里診療所・歯科診療所を全面的に改築することにより、バリアフリーにも対応した地域住民だれもが利用できる施設となり、地域医療体制の充実につながる事業である。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 綾里診療所・歯科診療所は、当該地区唯一の医療機関として直営で運営しており、地域住民にとっては早期に適切な医療が受けられ健康の保持増進のため欠かせない施設であるが、昭和38年(歯科診療所は昭和47年)の建設で築後約45年経過し、合併時の建設計画にも施設改築計画が登載されており、地域住民から早期改築の実現を要望されている。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 綾里診療所・歯科診療所を改築することで、バリアフリーにも対応した地域住民だれもが利用できる医療機関として、早期に適切な医療が受けられ健康の保持増進、地域医療体制の充実が図られるので、対象、意図とも適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 建設工事実施設計から工事着工まで速やかに事務を進めることで、工事進捗率の向上が見込まれるため、成果向上の余地がある。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 現状の施設では老朽化が著しい上、バリアフリーにも対応しておらず、高齢者や障害のある方などの利用に支障をきたしていることから、地域住民の健康の保持増進に影響を及ぼす。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 綾里地区の医療施設はほかにないことから、本施設の改築以外に手段はない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 指名競争入札により直接的な事業費の削減はできないが、入札結果として測量調査設計業務は請負率83.8%、建設工事実施設計業務は請負率88.7%に抑えられている。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 業務を可能な限り外部委託しているので、削減余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 当該地区唯一の医療機関として地域住民だれもが利用できる。また、直営の診療所等公共性の高い施設の整備に当たっては、これまでも受益者に負担を求めている。

事務事業ID	1250	事務事業名	綾里診療所・歯科診療所改築事業
--------	------	-------	-----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 22年度で事業終了。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 22年度で事業終了。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	国保年金課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																							
記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由 工事実施設計から着工までの間で成果向上の余地があったものの、適正に事業が完了した。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 22年度で事業完了		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
